

【第2学年】 児童の実態・課題及び授業改善策

	児童の実態・課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○読書や音読に意欲的に取り組む児童が多い。 ●助詞の正しい使い分けができなかったり、漢字・ひらがな・カタカナの表記を間違ってしまったりすることがある。 ●話を最後まで聞くことに課題がある児童もいる。 ●順序や、構成を考えて文章を書くことを苦手とする傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や宿題、授業等で漢字や言葉に関する課題に取り組み、繰り返し復習をしていく。 ・授業や宿題ノートの誤表記を指摘し、間違い直しをする習慣付けを行っていく。 ・よい聞き方をしている児童を紹介したり、「話し手を見ながら聞く」「傾きながら聞く」等、聞くときのコツを教えたりして、繰り返し最後まで聞けるように指導していく。 ・ワークシートを工夫し、「はじめ」「中」「おわり」や「書き方のヒント（書き始めや文末表現の例）」を視覚的に示していく。 ・具体的に「見たこと」「したこと」「聞いたこと」「思ったこと」等のカードを掲示し、更に表現の仕方の例示もいくつか挙げ、イメージを言葉にしやすくする。 ・週に1回の日記の宿題を継続する。文章を書く際に、上手に書けている文章を紹介して、文章を書く意欲を高める。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○実物を操作する活動に意欲的に取り組むことができる。 ●たし算、ひき算とも計算の仕方が定着していなかったり、計算ミスが多かったりする児童がいる。 ●文章題等の題意を読み取ることが苦手な児童がいる。 ●時刻と時間の問題を苦手とする傾向が見られる。 ●自分の考えを表現することを苦手とする傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や家庭学習等で繰り返し練習する機会を設ける。 ・筆算をするときに、位をそろえて計算することを意識させる。 ・見やすいノート、自分の考えをわかりやすく書いているノートを掲示し、意識を高める。 ・文章題のキーワードに印をつけたり、場面の様子を視覚的に示したりして、文章を丁寧に読む活動を行う。 ・日常生活の場面で、時刻や時間を意識させながら定着を図っていく。 ・自分なりの解決方法を、図や文章でノートに表したり、言葉で説明したりする機会を増やす。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ●児童自らの発見や気づきには個人差が見られる。 ●じっくり観察して丁寧に記録することを苦手とする傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・において、手触り、色、大きさ、形など、様々な観点から観察するよう促す。 ・観察するポイントを具体的に伝えることで、記入すべき点を絞る。 ・多様なものの見方を養い、記録するために、物事の様子や変化を見付けるだけでなく、比べたり何かに例えたりする活動を取り入れる。 ・細部までじっくり観察するために、実物投影機や写真等を活用する。 ・季節や時期に見られるものの実物や画像などを積極的に活用していく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ●リズム打ちの技能や音楽に親しもうとする姿勢に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板にリズムを掲示して、児童が見て分かるようにする。 ・色々な打楽器を使い、楽しんでリズム打ちに取り組めるような活動を取り入れる。 ・体を動かして聴くことが苦手な児童には、音楽に合った動きをしている友達の動きや、指導者の動きをまねするように促す。 ・できたことを認め励ましながら、楽しく学習できるように支援していく。 ・「元気のいい曲」「やさしい感じの曲」等の具体的な曲のイメージを言葉にする機会を増やしていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いを形にすることを積極的に楽しむことができる。 ●説明を最後まで聞くことが苦手な児童もいる。 ●丁寧な作業や、最後まで仕上げるのが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてや作業の過程を明示する。 ・道具の使い方や表現方法について指導する。 ・工夫したところを評価し、自信がもてるようにする。 ・丁寧に作業した友達の作品を紹介し、丁寧に作業する意欲を高める。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ●苦手意識が強く、すぐに諦めてしまう場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が模範を示すことで、具体的なイメージをもたせられるようにする。 ・めあての達成度や活動内容、実施した回数を児童が認識できる学習カードを作成する。 ・スモールステップで練習することができるよう、場の設定を工夫する。